

かけがえのない“わたし”を生きる ～ものづくりのまちから発信～

「日本女性会議」は、日本で最大規模の男女共同参画に関する会議です。1984年に名古屋市で第1回会議が開催されて以来、毎年、開催地を変え、全国各地で開催されてきました。第37回の開催地として刈谷市が選ばれ、2020年11月の開催に向けて準備を進めています。

男女共同参画の核心は、ジェンダー（社会的・文化的性別）に関わる平等にあります。今日のジェンダーをめぐる状況は多様で複雑です。2018年に世界経済フォーラムが発表した「ジェンダーギャップ報告書」によると、日本の男女平等度は149ヶ国中110位と低く、性差別の克服と女性の地位向上は、今日もなお重要課題です。男性にとっては、期待される男らしさや仕事中心の価値観が生きづらさをもたらしていることが指摘されています。LGBTなど性のあり方の多様性が尊重される社会をつくることも課題です。

「人生100年時代」を視野にいれ、人生そのときどきを「その人らしく」生きるためのネットワークや社会の仕組みを創りあげることも必要です。「日本女性会議2020 あいち刈谷」は、性別だけでなく、年齢、国籍、働き方、障がいの有無など、多くの点で様々な立ち位置にいる人々がそれぞれ、「かけがえのない」存在として尊重される社会を目指す、「みんなの」女性会議にしていきます。

愛知は、自動車、繊維、陶器、農業など、広い意味で「ものづくり」の盛んな地域です。なかでも刈谷を含む西三河地域は、自動車関連産業の集積地として発展してきた「ものづくりのまち」です。多くの企業や事業所が就労の場となり、若い労働者、特に男性が多く住むまちでもあります。ともすれば「男性中心のまち」になりがちな「あいち刈谷」から、新しい「生活と仕事」のあり方や多様性についての議論を、次の時代を担う若い世代とともに進め、広く社会に発信します。

「日本女性会議2020 あいち刈谷」実行委員会では、次の三つを柱に、会議の準備を進めます。

1 「生活と仕事の調和」の創造

長い人生を視野に入れ、地域や家庭での日々の生活を豊かにおくことを基礎においた「生活と仕事の調和」（ライフ・ワーク・バランス）のあり方を考え、提案します。

2 多様性の尊重

人の多様なあり方、生き方が尊重される社会のあり方を考えていきます。性別や年齢、国籍、障がいの有無などを問わず、誰でも参加できます。

3 世代をつなぐ

男女共同参画社会の実現に向けた取組を積み重ねてきた世代と、子どもたちを含む若い世代がともに学び、交流することで、男女共同参画の課題への取組を次世代へ受け継いでいきます。若い世代の主体的な参画を応援します。

「日本女性会議2020 あいち刈谷」には、どなたでも参加できます。多くの方に関わっていただくことで、よりよいものにしていきたいと考えています。一人でも多くの皆さまが、出会い、語りあい、繋がりながら、「かけがえのない」一人ひとりが大切にされる社会のあり方を一緒に考える場となることを願っています。

2019年3月28日

「日本女性会議2020 あいち刈谷」実行委員会